

飯塚市 現地ヒアリング調査報告

ネクストステージの総合計画研究会
 調査日: 2019年4月10日 13~15時
 参加者: 伴内委員・松川委員・山村委員
 【事務局】黒石・高野



公益財団法人

日本都市センター

Copyright 2019 The Authors. Copyright 2019 Japan Municipal Research Center All Rights Reserved.

1

飯塚市の概要



国土地理院「地理院地図」を基に筆者加工

人口	129,146人(2015年国勢調査) ・高齢化率: 29.1% ・旧飯塚市: 約8万人
面積・密度	214.07km ² (旧飯塚市: 71.80km ²) ・人口密度: 603.3人/km ² (旧飯塚市: 約1100人/km ²)
沿革	2006年3月26日 旧飯塚市・穎田町・庄内町・穂波町・筑穂町が新設合併
経済・産業	<ul style="list-style-type: none"> ・福岡市・北九州市それぞれから約1時間に位置する、筑豊地方の中心的な都市。 ・江戸時代から「長崎街道」の宿場町として栄える。近代化以降の石炭産業時代に多くの炭鉱があったが、産炭地域における商業の中心(商都)としての位置づけ。 ・石炭産業衰退後は自動車産業を中心とした製造業と、大学を誘致して情報系産業に力を入れている。 ・市内に3つの理工系(情報系)の大学 九州工業大学情報工学部、近畿大学産業理工学部、近畿大学九州短期大学



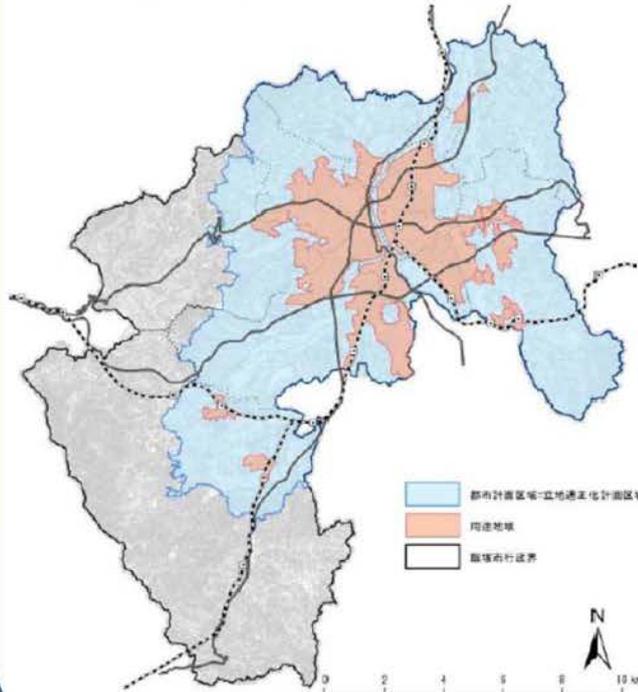
公益財団法人

日本都市センター

Copyright 2019 The Authors. Copyright 2019 Japan Municipal Research Center All Rights Reserved.

2

飯塚市の都市計画・土地利用計画



飯塚市立地適正化計画 p.10より抜粋

■ 都市計画区域について

- 非線引き都市計画区域
- 2010年4月：現行の都市マス策定
- 2011年8月：都市計画区域を拡大(合併した旧・筑穂町を、準都市計画区域から都市計画区域へ編入)
- 2017年1月：福岡県の方針により、周辺の都市計画区域とともに「筑豊広域都市計画区域」となる。

■ 国土利用計画について

- 第1次総合計画策定時(合併後すぐ)に国土利用計画を策定しているが、第2次総合計画策定時には国土利用計画の改訂は行っていない。
- 総合計画において拠点連携型都市構造ということは明確に位置付けているが、国土利用計画市計画においては特にその方針は明記されていない。
- 現状では、国土利用計画は福岡県の方で見直しが行われていないので、市としても見直す予定はない。



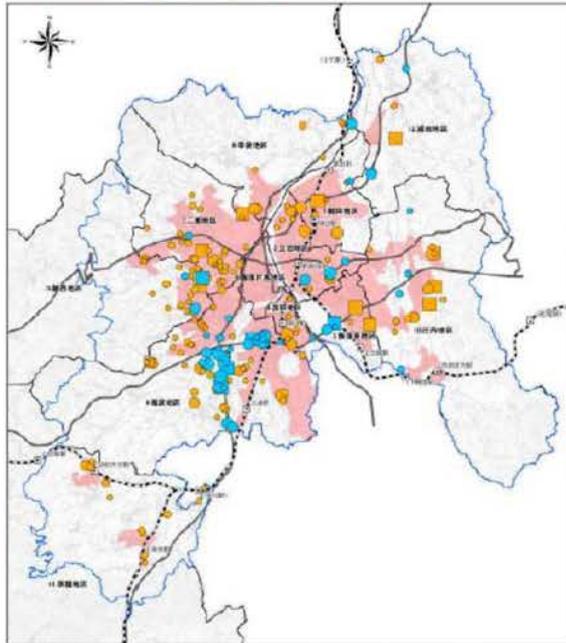
公益財団法人

日本都市センター

Copyright 2019 The Authors. Copyright 2019 Japan Municipal Research Center All Rights Reserved.

3

▼開発状況図 (2006 (H18) - 2014 (H26))



凡例		開発面積		交通線		用途地域	
●	商業系	○	~500㎡	○	2,000~3,000㎡	■	用途地域
●	住居系	○	500~1,000㎡	○	3,000~5,000㎡	---	都市計画区域
		○	1,000~2,000㎡	○	5,000~10,000㎡	---	都市計画区域
		○	2,000~5,000㎡	○	10,000㎡~	---	都市計画区域
				○		---	都市計画区域

飯塚市立地適正化計画 p23より抜粋

■ 飯塚市の課題

- 用途地域外の国道沿いに商業系の大規模な開発が集中している
- 住居系の開発も用途地域の縁辺部ないし外側に多い

→中心市街地の空洞化が深刻な課題であり、その活性化を図ることが健幸都市(SWC)政策や立地適正化計画のいずれにも共通した目標となっている。

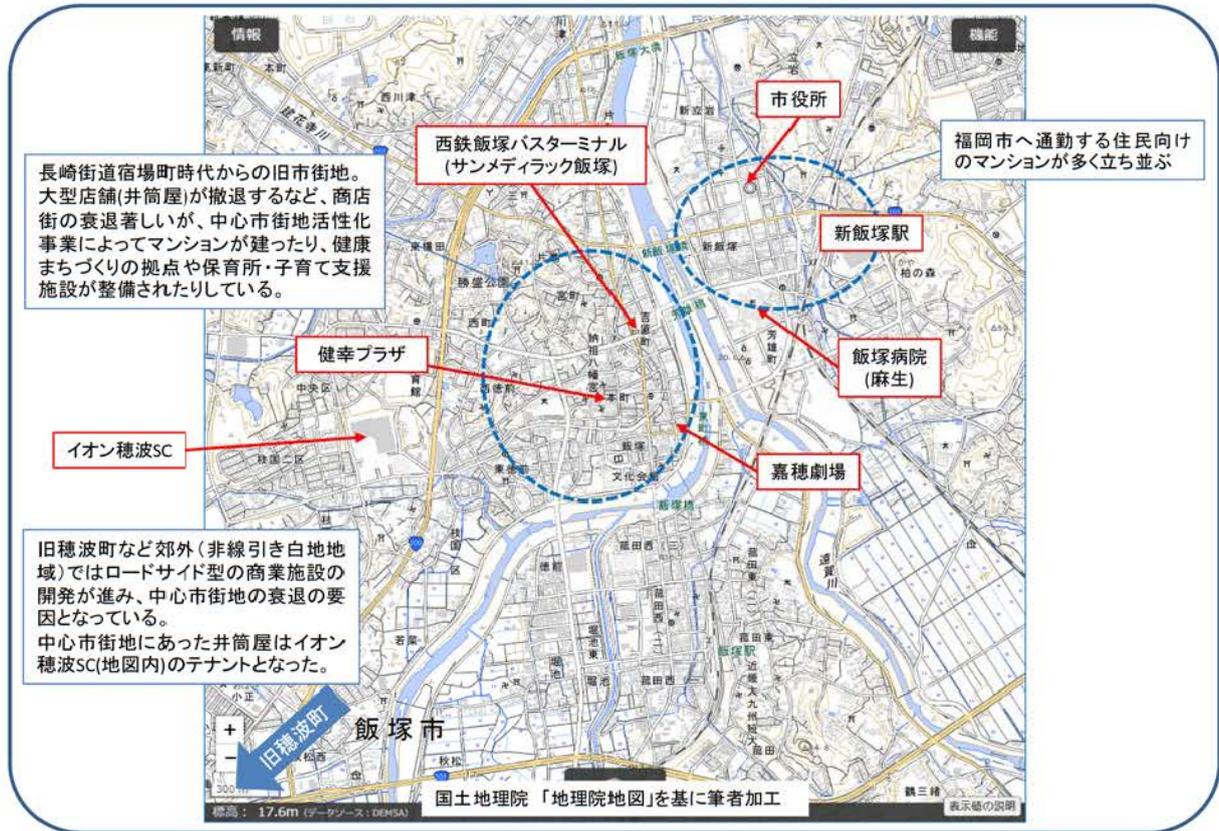


公益財団法人

日本都市センター

Copyright 2019 The Authors. Copyright 2019 Japan Municipal Research Center All Rights Reserved.

4



商店街の店舗の様子

- 全体的にシャッターを閉めている店が多い
- 婦人向けの洋品店が目立つ
- おもちゃ屋や菓子屋などもある
- 銀行の建物は古く、かつての繁栄を偲ばせる
- 井筒屋の建物は解体中



嘉穂劇場の周辺

- かつて炭鉱労働者の家族などの娯楽の場として賑わった嘉穂劇場
- 周辺にはスナック・バーなどの飲食店が多く立地している



Copyright 2019 The Authors. Copyright 2019 Japan Municipal Research Center All Rights Reserved.

7

マンションの立地

- 福岡への通勤者は人口の6%程度であるが、新飯塚駅前や中心市街地には新しいマンションが立ち並んでいる
- 田川市など、より福岡から遠い地域に居住していた人が、子どもの教育環境などを変えない範囲で、福岡に近づくために転居してくる、というパターンもあり、近年は転入超過傾向(自然減が大きいため人口は減少)



Copyright 2019 The Authors. Copyright 2019 Japan Municipal Research Center All Rights Reserved.

8

西鉄飯塚バスターミナル サンメディラック飯塚

- 老朽化していたバスセンターを建て替え。
- 1階バスターミナル、2~4階は休日夜間の急患センター・看護学校・医師会オフィスなど、5階以上はマンション。
- バスを通る道は比較的店舗も開いていて人通りも見られる。



Copyright 2019 The Authors. Copyright 2019 Japan Municipal Research Center All Rights Reserved.

9

健幸プラザ

- ダイマル(大型店舗)が撤退した跡地に、中心市街地活性化事業の一環として、集合住宅と合築の施設として整備
- 運動器具が置かれて自由に運動できるほか、料理教室など健康に関する活動が行われる
- プラザの前にはボルダリング用の壁、レンタサイクルのポートが整備される



Copyright 2019 The Authors. Copyright 2019 Japan Municipal Research Center All Rights Reserved.

10

ウォーキングコース(遊歩道)

- ・ 飯塚川の旧河道に遊歩道が整備され、ところどころに健康遊具が設置されている。
- ・ 街なかのいたるところにウォーキングコースの案内、健康プラザまでの距離・消費カロリーなどの表示などが設置されている。



Copyright 2019 The Authors. Copyright 2019 Japan Municipal Research Center All Rights Reserved.

11

街なかの子育て環境整備

- ・ 健幸プラザに隣接して学童保育施設、保育園を設置。
- ・ 「街なか子育てひろば」は子育て相談や遊び場、授乳・おむつ替えなど、だれでも利用できる施設。



Copyright 2019 The Authors. Copyright 2019 Japan Municipal Research Center All Rights Reserved.

12

健幸都市(SWC)政策の位置づけ・経緯

- 基本構想の5つの基本理念の一つに「共に支え合い健やかに暮らせるまち」を設け、基本計画の重要な政策分野の一つに位置づけ
- SWC政策に関する取組みの時系列的な経緯
 - 2007年9月 第一次飯塚市総合計画策定
 - ・「ふれあいとやさしさが支える健やかなまちづくり」
 - 2011年7月 スマートウェルネスシティ首長研究会に参画
 - 2012年3月 **中心市街地活性化基本計画認定**(~2017年3月)
 - ・ 将来像: 健幸をテーマとした飯塚の新たな魅力を創出
 - ・ 人が集い交流する賑わいの場づくりを目指し、社会資本総合整備事業を活用して中心市街地に健幸空間を整備
 - 2014年3月 いいづか健幸都市基本計画策定(第1次)
 - 2017年度 第2次総合計画策定
 - ・ 上記の基本構想・基本計画における重点政策分野への位置づけ
 - 2019年3月 第2次いいづか健幸都市基本計画策定



公益財団法人

日本都市センター

Copyright 2019 The Authors. Copyright 2019 Japan Municipal Research Center All Rights Reserved.

13

SWCに取り組むこととなった元々の要因

- 石炭産業・炭鉱都市の特性として、労働者のケガなどが多かったことから、大規模病院(飯塚病院・市立病院など)から小規模のクリニックまで医療機関の集積があった
- 経済産業省からヘルスケア産業を新たな産業として育成することの提案
 - スマートウェルネスシティ・筑波大学久野教授の紹介
 - 国土交通省:健康・医療・福祉のまちづくりの推進ガイドラインの紹介
 - SWCに加入して中心市街地活性化のキックオフのミーティングを行った
- SWC政策に取り組むにあたっての調査では、市民の平均的な活動量が低いことが明らかに → 「歩く」ことを促進することが第一
 - まちなかの健幸拠点の利用促進 → 中心市街地活性化
 - ウォーキングコースの整備 → 同上
 - 公共交通機関の利用促進 → 拠点連携型都市構造・立適・公共交通
 - 健幸プラザと各地域のトレーニング施設等の連携
 - 総合体育館の建設(旧1市4町にあったフルパッケージの体育施設の集約)



公益財団法人

日本都市センター

Copyright 2019 The Authors. Copyright 2019 Japan Municipal Research Center All Rights Reserved.

14

健幸都市基本計画の推進・見直し

- 健幸都市インデックス
 - 測定・評価が難しい項目が多い
 - 第2次計画では採用しなかったが、その代替として健幸プラザ等の施設利用者数やフレイル予防など健康関連の個別の指標をKPIとして掲げ、関係各部署が取り組みやすいようにした
 - 歩行量の増加による医療費の抑制効果などについて、単独自治体としてそれを判断するのは難しい
- 第1次計画では医療費を平成24年度の数値から維持することを目標としていたが、それは不可能であった
- 第2次計画の基本方針
 - まちの健幸づくり
 - ひとの健幸づくり
 - しごとの健幸づくり



公益財団法人

日本都市センター

Copyright 2019 The Authors. Copyright 2019 Japan Municipal Research Center All Rights Reserved.

15

第2次健幸都市基本計画に位置付けられた事業とKPI (「第2次計画」pp21-31)

分野	事業	KPI	基準値 (2017)	目標値 (2023)	
まち	歩いて暮らすまちづくり	道路路側帯グリーンベルト	1900m	3700m	
	公共交通ネットワーク	コミュニティ交通利用者数	78,965人	93000人	
		健康拠点の充実・整備	スポーツ施設利用者	620,163人	650,000人
			トレーニング室利用者	154,766人	170,000人
	健康プラザ利用者	31,843人	35,000人		
まちの賑わいづくり	車いすテニス大会参加者数	9,334人	11,000人		
ひと	生活習慣病予防と健康管理の推進	特定健診受診率	50.2%	60.0%	
		健康教室参加者	3,804人	4,200人	
	運動機会・体力づくりの充実	ウォーキングイベント参加者	1,149人	1,700人	
		健康運動教室参加者	19,238人	21,000人	
	健康的な食生活の推進	健康出前講座実施数	19回	30回	
	社会参加・生きがいづくり	フレイル予防サポーター登録	65人	250人	
健康教育の推進	健幸ポイント事業参加者	652人	1500人		
しごと	大学・企業等との連携	大学との包括連携協定事業	0件	3件	
	地域産業・健康産業との連携	地元食材を活用した事業数	95.4%	100%	
	健康経営の推進	事業所訪問実施数	0件	5件	

※上記の他、KPIが設定されていない事業も存在する



公益財団法人

日本都市センター

Copyright 2019 The Authors. Copyright 2019 Japan Municipal Research Center All Rights Reserved.

16

立地適正化計画の概要

- 2010年策定の現行都市マスタープラン
 - 「拠点連携型都市づくり」の方針 →立適にも引き継がれる
 - 2026年度までの計画期間 →立適も2026年度が計画期間
 - 立地適正化計画策定を受けて都市マスの見直しも検討中

■各種計画との関係（相関図）



【福岡県筑豊広域都市計画区域】
都市計画区域マスタープラン

連携する計画の一つとして「いづか健幸都市基本計画」が挙げられ、具体的な施策や目標として設定する指標など(後述)では、健幸都市政策が色濃く反映されたものになっている。

(飯塚市立地適正化計画p8)

都市機能誘導／居住誘導区域

- 都市計画区域外に居住する人は極僅か(1.7%)だが、用途地域外には一定の居住がある(およそ1/3)。
- 居住誘導区域は用途地域に対して約50%の面積に設定され、現状は全体の約40%の人口が居住しているが、これを45%に引き上げることが目標とされている。
- 都市機能誘導区域は旧市街・中心拠点だけでなく、合併前の旧拠点などを含めていくつかのパターンを設定して分散的に配置されている。

	面積(km ²)	割合	2010人口	割合
市全体	214.07	100.0%	131,492	100.0%
都市計画区域	135.07	63.1%	129,247	98.3%
用途地域	30.53	14.3%	86,967	66.1%
DID	13.12	6.1%	53,622	40.8%
居住誘導区域	15.46	7.2%	53,177	40.4%
都市機能誘導区域	8.37	3.9%	26,367	20.1%

都市機能誘導区域の類型	区域の役割	求められる都市機能				
		総合行政機能 広域文化芸術機能 発見型機能 総合金融機能 高度医療機能 二次医療機関 広域交通結節点	身近な行政機能 金融機能(ATM等) 医療機能 二次医療機関 拠点間の交通ネットワーク	コミュニティ機能 高品質な交通アクセス	身近な商業機能(日用品の購入) 医療機能 1次医療機関 高品質な交通アクセス	教育・研究機能 学術都市交流・情報発信機能
中心拠点型	市域全体の中心的存在	◎	○	○	○	○
地域拠点型	地区の中心的存在	-	◎	○	○	-
コミュニティ拠点型	地域コミュニティの活性化	-	-	◎	○	-
暮らし維持型	周辺地域を含めた暮らしの確保	-	-	-	◎	-
学術都市型	研究・交流による地域経済の活性化	-	-	-	-	◎

(飯塚市立地適正化計画p68)

立地適正化計画と健幸都市

- 「歩いて暮らせるまちの形成」という都市像と健幸都市のビジョンが結び付けられている
- 健康寿命の延伸を立地適正化計画の評価項目の第一に掲げている。

■まちづくりの基本的な方針と施策の整理表

課題	まちづくりの基本的な方針	施策の考え方	
		施策の考え方	施策の展開
生活利便性の低下	将来の暮らしを支える生活環境づくり	人口減少下での生活利便性の維持	拠点における生活利便施設等の確保
		人口減少下での生活利便施設周辺における人口密度の維持	拠点およびその周辺における良好な居住環境の確保
		市民との協働によるまちづくりの推進	地域コミュニティの活性化
		過度に自家用車に頼らない暮らしの実現	持続安定的な交通ネットワークの構築
地域活力の低下	飯塚市の魅力を高める都市環境づくり	大学力を活かした都市の活力の維持・増進	飯塚市の魅力を高める学園都市づくり
		健幸都市の実現による都市の活力の維持・増進	いきいきと笑顔で暮らせる健幸都市づくり
		広域的視点での定住の促進と圏域の都市活力の維持・増進	都市の魅力向上による定住の促進
		計画的な土地利用による快適な都市空間の形成	自然環境の保全と災害に強いまちづくり

成果	評価項目	現在の状況 (基準値 :直近の数値)	平成38年度 トレンド値	平成38年度 目標値
誰もが実感できる健幸都市の実現	健康寿命(*①)の延伸(平均寿命と健康寿命の差)(単位:年)	男性)1.46年 女性)3.21年 (2014 (平成26年)	—	平均寿命の増加分を上回る健康寿命の増加
歩いて暮らせるまちの形成	居住誘導区域内における人口の市域全体の人口に対する割合(単位:%)	40.5% (2010 (平成22年)	40.5%	45%
活発なコミュニティ活動の展開	交流施設(*②)の利用者数の増加(単位:人/年)	392.4千人 (2015 (平成27年)	380.3千人	433千人

(飯塚市立地適正化計画p106)

まちづくりの方針における住宅および都市機能増進施設の立地の考え方
まちづくりの方針における公的不動産の考え方
近隣市町との広域連携の推進

拠点連携型の都市づくり

人が輝き まちが飛躍する 住みたいまち 住みつけたいまち
～地域のつながりと豊かなコミュニティをはぐくむまちづくり～

(飯塚市立地適正化計画p59)



公益財団法人

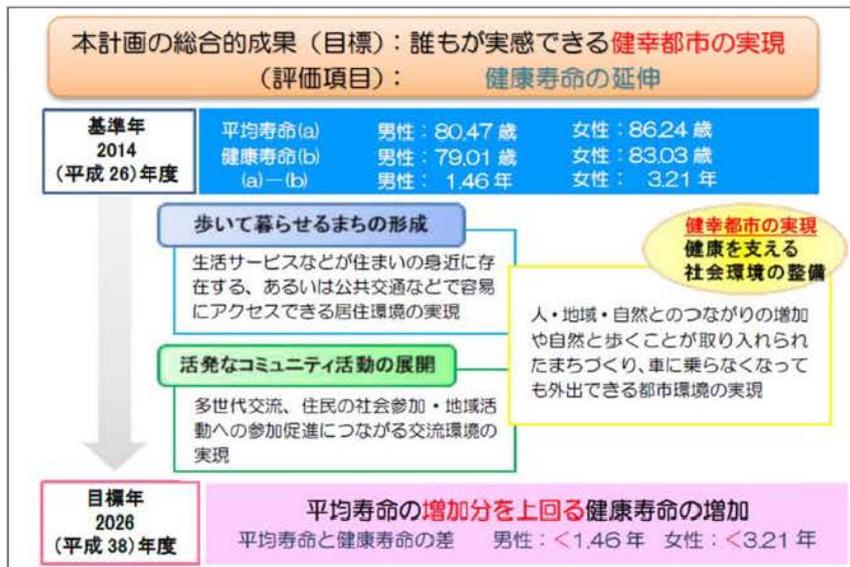
日本都市センター

立地適正化計画と健幸都市

- 健康寿命の延伸を立地適正化計画の評価項目の第一に掲げている。

■計画における目標値の考え方

【下図】



(飯塚市立地適正化計画p108)



公益財団法人

日本都市センター